

U.S. Indicators

発表日: 2024年12月17日(火)

米景気堅調、雇用加速もインフレ圧力緩和(12月PMI速)

～民間需要はサービス主導で好調～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

24年12月のS&Pグローバル米国総合購買担当者指数(PMI)は、56.6(前月54.9)と前月比1.7%ポイント上昇し、市場予想中央値(Bloomberg集計)の55.1(筆者予想55.2)を上回った。同統計調査対象企業の活動や民間需要の拡大ペースの加速が示された。12月総合PMIは、拡大縮小の分岐点である50を23ヵ月連続で上回ったうえ、水準も高く、米景気が堅調さを維持していることを示唆している。

製造業は、48.3(前月49.7)と前月比1.4%ポイント低下し、縮小ペースの拡大が示された。一方、サービス業は、58.5(前月56.1)と前月比2.4%ポイント上昇し、高い水準を維持、速いペースでの拡大継続を示した。内外での人の移動の活発化による需要の強まりを背景に23ヵ月連続で拡大縮小の分岐点である50を上回ったうえ、米民間サービス業の活動が好調さを維持していることが示された。

総合新規受注は、56.6(前月54.8)と上昇し、需要の拡大ペースが加速したことを示した。製造業が47.6(同49.3)と低下したものの、サービス業が58.2(同55.8)と大幅に上昇し、高い水準となった。また、総合雇用は、50.6(同49.4)と上昇し、雇用が拡大に転じたことを示した(雇用統計では雇用の増加ペース加速)。製造業が50.2(同51.4)と低下した一方、サービス業が50.7(同49.0)と50台を回復した。

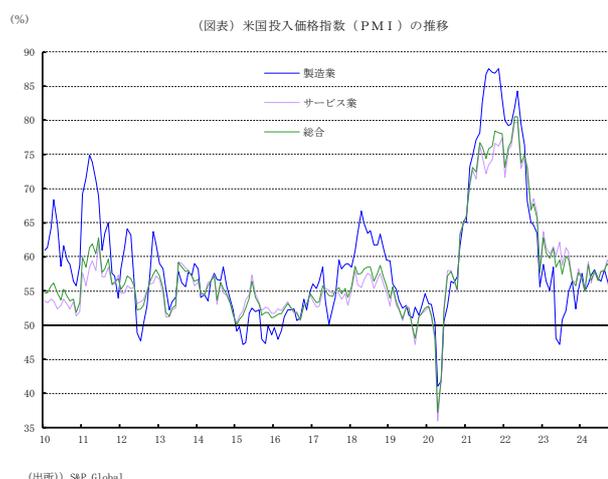
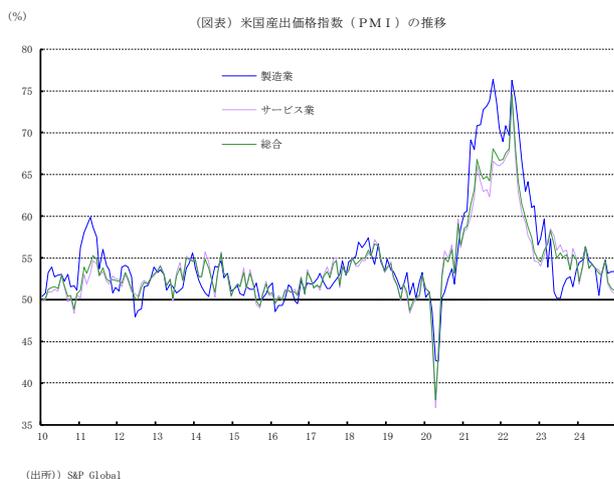
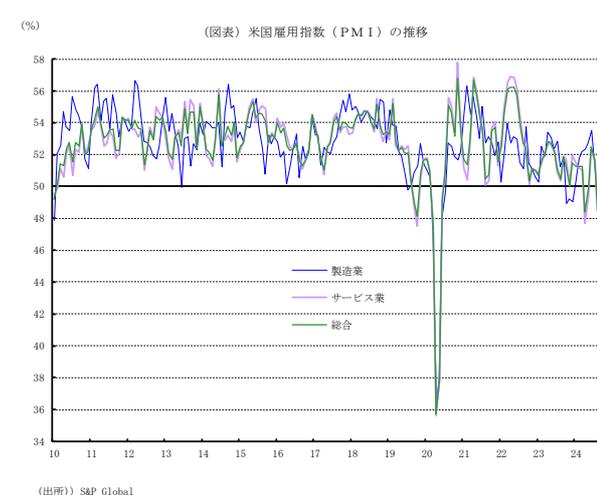
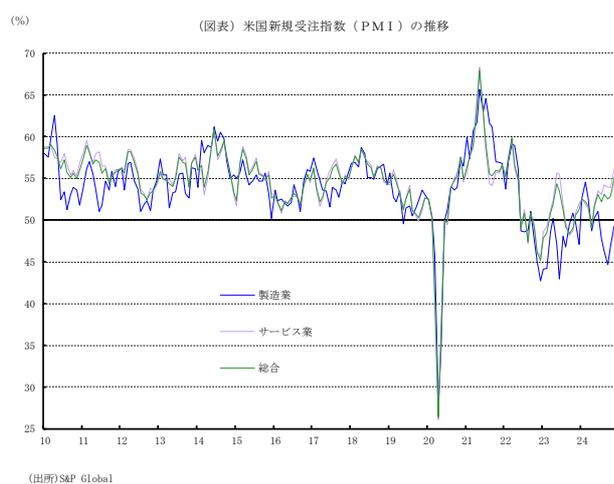
インフレ関連では、総合投入価格指数が56.0(前月56.1)と低下したうえ、総合産出価格指数が51.2(同51.4)と均衡水準付近に低下し、消費者段階でのインフレ圧力の弱まりを示した。製造業では、投入価格指数が59.1(同52.3)と急上昇したが、産出価格指数が53.4(同53.4)と変わらずとなっており、製造業の収益悪化を示唆した。また、サービス業では、投入価格指数が55.5(同56.8)と小幅低下したうえ、産出価格指数が50.8(同51.0)と均衡水準程度まで低下しており、消費者段階でのサービス価格の上昇圧力の緩和を示した。

製造業では、新規受注が47.6(同49.3)、生産が46.3(同49.2)、雇用が50.2(同51.4)、在庫が47.3(前月50.5)と低下した。寄与度では、新規受注が前月比▲0.49%ポイント、生産が前月比▲0.47%ポイント、雇用が前月比▲0.25%ポイント、在庫が前月比▲0.19%ポイント、入荷遅延が前月比▲0.02%ポイントの押し下げ寄与となった。

サービス業では、活動指数が58.5(前月56.1)と上昇し高い水準を維持、事業活動の一段の活発化を示した。また、新規受注が58.2(前月55.8)と高い水準に上昇、需要の速い拡大を示した。さらに、「将来の活動指数」が71.4(前月67.0)と上昇し高い水準で推移しており、サービス関連企業は先行きに対して楽観的な見方を維持し続けている。



10-12月期の総合PMIは、55.2と7-9月期の54.3から上昇しており、10-12月期に米民間需要の拡大ペースが加速したことを示している。製造業が48.8（7-9月期48.3）と上昇に転じたほか、サービス業が56.6（7-9月期55.3）と上昇し高い水準を維持した。米民間需要は、サービスのけん引で、堅調さを維持している。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。